

Costume and Textile

No.45

服飾文化学会会報

2023年3月

2023（令和5）年度 第24回服飾文化学会 大会のお知らせ

2023（令和5）年度服飾文化学会第24回大会を下記の通り開催いたします。多くの皆様にご参加くださいますようお願い申し上げます。

【2023（令和5）年度服飾文化学会第24回大会】

開催日時 2023年5月20日（土）10：00～17：30予定

*不測の事態の予備日 5月21日（日）

開催校 相模女子大学・女子美術大学

開催形式 オンライン会議システム「Zoom」を使用したオンライン大会

1. 大会プログラム

10：00～10：05 開会の辞

10：05～11：20 特別講演

11：35～16：50（予定）口頭発表、ポスター発表・作品発表 ショートスピーチ

17：00～17：30 総会・閉会の辞

※発表件数によっては時間変更が生じます。後日HPに掲載するプログラムのご確認をお願い致します。

2. 発表・参加申込

（1）発表申込締切日 2023年3月25日（土）

提出メールアドレス：taikai.fukubun2023@gmail.com

①既に第24回大会ご案内メールにてお送りしました「発表要項」（2種）に沿って、大会実行委員会までEメールにてお申込みください。（3/25必着）

②発表形式には、口頭発表・ポスター発表・作品発表の3種があります。

③発表は未発表の研究報告で、共同発表者とともに本学会員に限られます。非会員の発表希望者は学会ホームページから、必ず入会手続きをお願い致します。

（2）要旨原稿締切日 2023年4月22日（土）

提出メールアドレス：taikai.fukubun2023@gmail.com

①用紙：A4 縦置き、横書き、1枚

②余白：上25mm、下30mm、左右30mm

③文字：10.5ポイント、明朝体

*詳細は開催のお知らせメールをご確認ください。

（3）参加申込・払込締切日 2023年5月5日（金）

参加申込：第24回大会ご案内メール、学会HPに記載された申込フォームにてお申込みください。

参加費	会 員	1,000円
	非会員	2,000円
	学生会員・非学生会員	無 料

ゆうちょ銀行：振込口座 00190-2-266598

他行ご利用：〇一九（019）店 当座0266598

加入者名：大崎 綾子（オオサキ アヤコ）

*振込手数料が発生する場合は、ご負担をよろしくお願いいたします。

*振り込みの確認が済みましたら、開催3日前にzoomのURLを送信いたします。

3. 特別講演

◆講師 長村律子氏

子供服デザイナー（株）ナルミヤ・インターナショナル

◆演題「未来を担う子供たちに夢を与える—物創りへのこだわりと子供服業界のこれから—」

◆講演内容

毎年、様々なブランドから子供の愛らしさを更に引き立てるデザインの子供服が生み出されています。そこで、BABY・KIDSの複数のブランドにデザイナーとして数十年間携わられてきた長村氏に、デザ

イナーとして培ってきた「物創りへのこだわり」や、少子化傾向を踏まえた「子供服業界のこれから」などについて講演いただきます。ハイクオリティーなライセンスブランドからデイリーで着られる身近なブランドまで幅広いターゲット層のデザインを手掛けられたご経験を基に、ブランド毎にデザインを差別化する実例、コロナに伴う商品の発信方法や海外への流通方法の変化、デザイナー目線での販売への想いや工夫、現役デザイナーが求める人材などについてもお話ししていただく予定です。

◆プロフィール

- 1968年 東京都生まれ
- 1980年 バンタンデザイン研究所卒業
- 1980年 HIROKO KOSHINOBABY担当デザイナー（ラブリー株式会社）
- 1998年 YVES SAINTLAURENT Infantアシスタントデザイナー（アルプスカワムラ株式会社）
同時にYUMIKATSURABABY担当デザイナーとなる
- 2010年 sense of wonderチーフデザイナー（株式会社ナルミヤ・インターナショナル）
- 2018年 mezzo pianoチーフデザイナー
- 2020年 sense of wonderディレクターとなりBaby Cheerなど他ブランドも手掛ける

をお願いいたします。正会員の方は、前述の「2.発表・参加申し込み」の（3）に記載しましたように、第24回大会ご案内メールや学会HPに記載された大会申込フォームから回答をお願いいたします。なお、本大会不参加の方も、こちらのフォームにアクセスし「総会委任状」へお名前をご入力いただけますようご協力の程よろしくをお願いいたします。

5. 連絡先

服飾文化学会 第24回大会実行委員会
taikai.fukubun2023@gmail.com

【全体、口頭発表】

〒252-0383 神奈川県相模原市南区文京 2-1-1
相模女子大学
角田 千枝（つのだ ちえ）

Email:tsunoda_chie@isc.sagami-wu.ac.jp
Tel:042-749-4908

【ポスター・作品発表】

〒252-8538神奈川県相模原市南区麻溝台1900
女子美術大学
藤井 裕子（ふじい ひろこ）
Email:fujii16092@venus.joshi.ac.jp
Tel: 042-778-6671

4. 2023年度 総会

本学会の発展のために、多数の会員の総会への参加



2023春の新作コレクション「sense of wonder」「Baby Cheer」（株）ナルミヤ・インターナショナル

特集記事 京橋彩区文化講座「日本刺繍」絹の光沢に秘められた美

大崎綾子 (女子美術大学)

江戸時代からの歴史と文化の発信地、京橋地区ではアーティゾン美術館や建設中の戸田建設の施設を中心にアート・文化イベントによるまちづくりが行われています。

「京橋彩区文化講座」ではアートに触れ、アートを通して日々を豊かにする気づきやきっかけを届けることを目的とした講座を2019年から開始し、2022年は「生活の中のアート」をキーワードに11月16日、第35回「日本刺繍絹の光沢に秘められた美」において、女子美大学染織コレクションを中心に日本刺繍の歴史を軸に世界の刺繍を現物の鑑賞を含めお話しさせていただきました。

講師は女子美術大学名誉教授、客員教授の岡田宣世先生、女子美術大学芸術学部准教授大崎綾子が担当致しました。



講演の様子

(画像提供 京橋彩区エリアマネジメント)

「刺繍」に興味がある方に向けたプログラムとなるように内容を検討し、以下の内容で質疑応答を含め1次時間半の講座となりました。

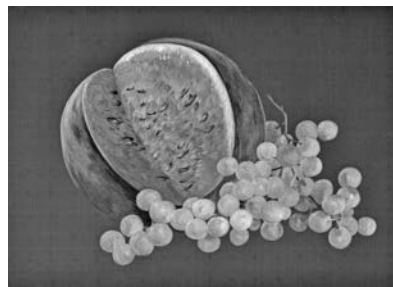
- ・女子美コレクションにみる世界の刺繍
- ・刺繍の主な技法
- ・日本刺繍
(技法・材料・絹糸の撚り・絹糸の光沢・道具)
- ・日本刺繍とは
- ・日本刺繍の歴史
- ・近代以降の刺繍 (女子美における刺繍画)
- ・女子美工芸専攻紹介
- ・刺繍技術の活用(染織品保存修復)
- ・現代の刺繍作品
- ・刺繍を学ぶ (刺繍を学ぶお教室紹介)

最後に、講座の中でも紹介した刺繍の実物資料の紹

介と11月9日から開催されていた女子美染織コレクション展Part10「江戸から明治の装い きもの」展の紹介を行いました。

講座の中から「近代以降の刺繍 (女子美における刺繍画)」を紹介致します。

明治期以降は日本国内の体制の変化と共に刺繍の形態も変化し、海外に向けた刺繍作品として大型の写実的な衝立や壁掛けが数多く制作されました。特に刺繍で描かれた絵画は刺繍による絵「繡畫 (しゅうえ)」と命名され盛んに作られました。それまでの日本画を下絵にした刺繍と異なり写実的な油画を下絵にしたものが現れ、海外からの需要が多くありました。本学では明治40年以降に制作された刺繍作品が残されており、当時の輸出工芸品の影響をうかがう事が出来ます。



「すいかとぶどう」

女子美術大学芸術学部工芸専攻刺繍所蔵



「滝」

実物資料としては、2代目校長の佐藤志津先生から頂いた帷子を鏡掛け仕立てた裂や大正～昭和初期の精巧な刺繍の帯を紹介しました。



「佐藤志津先生旧蔵鏡掛け」



「四季草花模様丸帯」

女子美術大学芸術学部工芸専攻刺繍所蔵 岡田宣世蔵

この講座を通して、日本刺繍の伝統ある美しさを少しでも身近に感じていただければ幸いに存じます。

講座は以下のURLでオンデマンド配信をご覧いただけます。

<https://www.youtube.com/watch?v=IvjTRJzhIgg&t=3978s>

2022 (令和4) 年度 研究例会の報告

2022年度研究例会は9月3日(土)にオンラインで開催されました。「戦国時代の戦衣の素材と仕様—様々な実用性と工夫—」と題して共立女子大学 長崎巖先生による講演が行われました。出席者は学会員と非学会員を合わせて35名でした。講演の内容は次の通りです。

(研究例会担当 宮武恵子)

【研究例会講演概要】

戦国時代の戦衣の素材と仕様
—様々な実用性と工夫—

長崎 巖

武家は、社会階層を支配者へと上りつめてゆく過程で、武家独自の服飾を作り上げましたが、一方、「もののふ」として戦に臨む際に着用する衣服は、命をかけて敵と戦う戦場で必要とされる物理的機能性と視認性を併せ持つものが求められました。陣羽織は、戦国時代に当世具足と呼ばれる軽便な鎧が出現したのに伴って、その上に羽織って防雨・防風・防寒などの役割を果たした衣服で、武将が主に野外に陣を張ったときや、馬で移動するときなどに着用しました。従って、実際に戦が日常的に行われていた室町時代末期から江戸時代初期にかけての陣羽織には、そうした機能をもった形状や仕立て、素材や生地が用いられまし

た。研究例会における講演では、こうしたことについて、具体的な作品や事例を紹介しながら述べさせていただきました。

陣羽織の出現については、そのもとになったものとして「胴服」と呼ばれた衣服の存在が重要な意味を持っています。胴服(「どうぶく」または「どうふく」と読まれる)、は、武将が主に外出時や野外で、小袖の上に羽織るコートのようなもので、もとは「道服」と表記されていましたが、後に丈の短いものが一般的になると、上半身を覆うものという意味で「胴服」と表記するようになりました。

上杉謙信の活躍期に、小袖を着て帯を締めた上にさらに引っ掛けて着用する外衣として、初めは小袖を流用したことに起源をもち、乗馬時の必要性から、裾を内に折り込んだり、背縫いの下方を裾から腰のあたりまで解いて背割りを作ったりするようになりました。前者は「小袖の端を折る」ことから「はおり」という言葉を生み出すことになるとともに、丈の短い胴服を生み出すことに繋がっていきます。

上杉神社所蔵の上杉謙信所用と伝えられる胴服には、小袖とほぼ同じ丈で衿が付き、背割りのあるもの、丈は短いが衿のあるもの、衿がなく丈が短いものがあり、小袖の流用から始まった胴服の成立の途中経過を推測する一助となっています。



長崎 巖氏

こうした胴服もが陣中や行軍の際に鎧の上にも着られるようになると、さらに甲冑を付けての乗馬に適した物理的機能の強化と戦闘における身体活動を妨げない形状や機能の付加が求められ、形状については、丈を胴服よりもさらに短くし、小手を通しやすくするために袖口を大きく開けた形状が一般的となりました。陣羽織は、甲冑の上に着用して多く馬上で着用されたため、騎乗の便宜を図った工夫がいくつも加えられています。脇にマチを付けて裾を広げた仕立てにする、前身頃に対して後身頃の丈を短く仕立てる、腰から下の部分をブリーツーストのような仕立てにするなどは、そうした用途に対応して生まれた工夫です。

陣羽織には、防風・防寒のために西洋からもたらされた毛織物で仕立てたものがあるほか、防雨と軽量化を兼ねて表面に鳥毛を植え込んだものや、軽量化と防風のために和紙に柿渋を塗布するなどの工夫を加えたものなども見られます。

また同時に、陣羽織には戦場においては視認性も求

められました。戦場において、配下のものに対しては主人としての自己が健在であることを示すために、また自らの主人に対しては自己の活躍をはっきりと認識されるため、陣羽織は視認性が高く、個人が特定できるものでなければならなかったのです。戦が実際に日常的に行われた戦国の時代に、希少な生地や派手な色、奇抜な模様を用いた陣羽織が多く見られるのはこうした理由によるのです。生地では主として中国から伝わった金襴や緞子などのいわゆる名物裂系の染織品と、南蛮船によってもたらされた羅紗・ビロード・綴織・更紗などのヨーロッパ・東南アジア系の染織品が主流であったが、また変わったものでは、防水や保温といった実用性ととも、その珍奇さから獣毛や鳥毛も陣羽織の加飾のための素材として用いられました。そして江戸時代に庶民の衣料の主要な生地素材となる木綿も、この時期には輸入されたものを中心に陣羽織に用いられていたのです。



紫羅紗地鶴丸紋付陣羽織
桃山～江戸時代・17世紀初頭 個人蔵

2022(令和4)年度 論文発表会の報告

2022年度の論文発表会は2023年2月25日(土)の13時より開催された。今年度は3年ぶりにハイブリッド開催を予定していたが、オンラインの発表希望が多かったため、Zoomを使用してのオンライン開催へ変更しての発表会となった。

玉田真紀会長の開会の挨拶では、参加学生へは「緊張せずに1年間の研究の成果を発表してほしい。」、参加して下さった方々へは「発表学生にとって有意義な発表会になるように温かい気持ちでご助言、ご意見、ご質問をいただきたい」というご挨拶をいただいた。

発表者数は、卒業論文が5件であり、発表の概要は以下のプログラムの通りである。

2022年度 服飾文化学会 論文発表会		2023年 2月25日(土)
13:00 - 13:05 開会のあいさつ 会長 玉田 真紀 (尚絅学院大学)		
卒業論文		
1	13:10 - 13:25	発表 石上 美紀 (文化学園大学 (非)) 『メットガラ ドレスをまとった美術館』から学ぶ社会潮流 Social trends considered from "The First Monday in May" 西村 まどか (杉野服飾大学)
2	13:30 - 13:45	発表 沢尾 絵 (東京家政大学) 日本の染織品にみられる「文芸意匠」に関する研究 ―時代・身分・美意識が生み出したもの― 畑中 和花 (共立女子大学)
3	13:50 - 14:05	発表 菅野 もも子 (文化学園大学博物館) 鏑木清方の青と赤 ―清方芸術の背景にあるもの― 原田 知果 (共立女子大学)
4	14:10 - 14:25	発表 角田 千枝 (相模女子大学) むいぐるみ心理学®を身近に実践できるアウトターの提案 ―実物製作― 所 健太郎 (文化学園大学)
5	14:30 - 14:45	発表 高橋 佐智子 (戸板女子短期大学) 骨格診断の真偽 上田 えみり (実践女子大学)
14:50 - 14:55 閉会のあいさつ 副会長 田中 淑江 (共立女子大学)		

<プログラム>

開会の挨拶 会長 玉田 真紀 (尚絅学院大学)

座長 石上 美紀 (文化学園大学 (非))

1. 『メットガラ ドレスをまとった美術館』から学ぶ社会潮流

Social trends considered from "The First Monday in May"

西村 まどか (杉野服飾大学)

座長 沢尾 絵 (東京家政大学)

2. 日本の染織品にみられる「文芸意匠」に関する研究 ―江戸時代の小袖を中心に―

畑中 和花 (共立女子大学)

座長 菅野 もも子 (文化学園大学博物館)

3. 鏑木清方の青と赤 ―清方芸術の背景にあるもの―

原田 知果 (共立女子大学)

座長 角田 千枝 (相模女子大学)

4. むいぐるみ心理学®を身近に実践できるアウトターの提案 ―実物製作―

所 健太郎 (文化学園大学)

座長 高橋 佐智子 (戸板女子短期大学)

5. 骨格診断の真偽

上田 えみり (実践女子大学)

閉会の挨拶 副会長 田中 淑江 (共立女子大学)

1件目の発表は杉野服飾大学の西村まどかさんによる『メットガラ ドレスをまとった美術館』から学ぶ社会潮流 Social trends considered from "The First Monday in May" である。毎年5月にアメリカのメトロポリタン美術館で開催されるファッションの祭典「メットガラ」に着目し、出演者が表現するファッションと社会性についてを研究し、ファッションは個性を表現するだけのものではなく、個人の思想を表現する、社会に影響力のあるものであるということを立てた。

2件目は、共立女子大学の畑中和花さんによる「日本の染織品にみられる「文芸意匠」に関する研究 ―江戸時代の小袖を中心に―」である。(プログラムの副題―時代・身分・美意識が生み出したもの―から―江戸時代の小袖を中心に―に変更)江戸時代の小袖に見られる「文芸意匠」に着目し、着用者の文芸作品への関心と染織技法の発達が「文芸意匠」の発展にどのような関わりがあるかを考察した。江戸時代の小袖に見られる「文芸意匠」は身分の階級によって異なっていたが、出版文化の興隆や着用者の文化的教養などの

影響により徐々に変遷していったことを立証した。

3件目は、共立女子大学の原田知果さんによる「鏑木清方の青と赤 —清方芸術の背景にあるもの—」である。鏑木清方が描く女性が身にまとう着物に青と赤が多用された背景を明らかにした。その結果清方の青と赤には江戸時代から東京（江戸）で好まれた流行色が影響しているという仮説を立て、青と赤は東京で好まれる配色であったこと、浮世絵を意識していたための二点であることを検証した。

4件目は、文化学園大学の所健太郎さんによる「ぬいぐるみ心理学®を身近に実践できるアウターの提案 —実物製作—」である。2014年に伊庭和高氏が開発した「ぬいぐるみ心理学®」とは人間関係の悩みを解決する方法手段としてぬいぐるみと意識して関わるという理論である。『ストレスフリー人間関係』（伊庭和高著 2020年）から心理学の理論調査を行ったうえでアンケート調査を行い、デザインと使用素材を決定し、オリジナルのアウター製作を行い、理論を実証した。

5件目は、実践女子大学の上田えみりさんによる「骨格診断の真偽」である。近年「パーソナルカラー診断」に代わり流行している「骨格診断」に着目し、本当に信頼に足るものなのか、その真偽を明らかにすることを目的にアンケート調査、および実際に3つのタイプに該当する3名の被検者に服を着用してもらい、推奨されていることに合致するかの検証をするための印象評価を行った。骨格は一生代わることがないため骨格で選ぶことは推奨されているが、印象評価の結果からは似合うファッションを導き出すことはできなかった。今後、的確なモデルの選定、服のデザインのバリエーションによって結果が変わる可能性を示唆した。

閉会の挨拶では、田中淑江副会長より服飾文化の研究分野は課題や研究方法は多岐にわたっており、本日も様々な視点から研究に取り組む学生の発想力の豊かさと探求心に刺激を受けたこと、また4月からは社会に巣立つ、あるいは研究を続けるなど様々だが、研究することで培われた探求心を持ち続けて活躍してほしいとの激励の言葉が述べられた。

最後に、今回学生たちに発表を促していただきました先生方、ご協力いただいた先生方に心よりお礼申し上げます。

追記

発表会後のアンケート集計結果報告

以下が開催後に行ったアンケート結果の抜粋である。

開催形態の希望

- ・対面が望ましいが、社会情勢によってはオンライン開催でもやむを得ない 51.9%
- ・オンライン開催 37.0%
- ・対面 7.4%
- ・ハイブリッド 3.7%

開催時期の希望

- ・2月下旬 70.4%
- ・3月上旬 22.2%

開催曜日の希望

- ・土曜日 59.3%
- ・平日 37.0%

開催時間の希望

- ・午後 74.1%
- ・午前 25.9%

自由記述

- ・有意義な発表を拝聴でき、勉強になった。
- ・時間がなく、座長の先生以外の質問がなかったのが残念である。
- ・多方面からの研究内容の発表でとても勉強になった。
- ・作品を実際に見たかった。
- ・オンライン開催は多くの方々が気軽に参加でき、遠方からも移動時間を考えないで済むので、参加しやすい。今後も検討していただきたい。

次年度からも多くの方に参加していただき、実りの多い、有意義な論文発表会の開催になりますよう、参考にさせていただきます。

アンケートにご協力いただきありがとうございます。

(論文発表会担当 水谷みつ江)

●第12回 生活科学系コンソーシアムシンポジウムの報告

2022年12月11日(日)にシンポジウムはオンラインで開催された。このシンポジウムは2021年より生活科学の視点でWith/Postコロナ社会と人の生活について検討が重ねられ、今回は3回目の開催となる。テーマは「With/Postコロナ社会と人の生活－生活科学からの提言－」で、日本繊維製品消費科学会、国際服飾学会、服飾文化学会の3学会が報告を行った。本学会からは菅野ももこ理事(文化学園博物館学芸員)が登壇され、「大学博物館・美術館ヴァーチャル見学会の実施について－服飾文化セミナー・研究例会での試みと今後の展望－」のテーマで報告をされた。本企画は新型コロナ感染症拡大により、オンラインの利点を生かし、5つの大学博物館・美術館が連携し各館の展覧会の様子を動画や写真などを駆使し、参加者がまるで展示室にいるかのような臨場感あふれる充実した内容であった。菅野理事はこれらの内容をシンポジウムにおいて、写真や動画を用いて詳細な発表をされた。発表後には活発な意見交換が行われ、シンポジウム参加者から本学会の取り組みは、今後の大学博物館・美術館の新たな社会貢献の在り方として共感を得られたようであった。

ここ数年、今までに経験をしたことの無い、閉塞感漂う教育環境であった。しかし、本学会の取り組みは、学会員の専門性を生かし、連携することで、服飾文化の新たな学びの形を提案し共有することが可能であることを再認識するシンポジウムであった。

担当 田中淑江

*****事務局より*****

●会員異動(敬称略、申込順)

☆新入会員

正会員

澤海 綾音(所属なし)

井口 多恵子(杉野服飾大学短期大学部)

☆退会者

なし

●2023年度 年会費納入のお願い

日頃は学会運営にご協力頂き御礼申し上げます。この度、2023年度、年会費納入のご案内を差し上げます。同封の郵便局払込取扱票にてお納め下さいますようお願い申し上げます。

2023(令和5年)年度 ■正会員 年会費:6,000円

2023(令和5年)年度 ■学生会員 年会費:3,000円

*払い込みに際し、通信欄に2023年度会費とご記入下さい

また、ご不明な点がございましたら、下記事務局までご遠慮なくお問い合わせ下さい。

服飾文化学会事務局

〒102-8357 東京都千代田区三番町12 大妻女子大学
工芸デザイン研究室内

fukubunjim@gmail.com

●著書の紹介

タイトル:長崎毛氈モノ語り 近世期の物質文化の受容と技術の導入

著者:砂崎素子

発行所:長崎文献社

発行日:2022年2月22日

定価:1,650円(税込)

◇◇◇◇◇◇◇◇ 展覧会のお知らせ ◇◇◇◇◇◇◇◇

■「ヨーロッパン・モード」

会期:2023年3月10日(金)~5月20日(土)

会場:文化学園服飾博物館

休館日:日曜日・祝日

開館時間:10:00~16:30 4月21日(金)、5月12日(金)は19:00まで開館、入館は閉館の30分前まで

■「色をよそおう－黒いドレスを中心に－」

会期:2023年4月10日(月)~7月28日(金)

会場:杉野学園衣裳博物館

休館日:日曜日・祝日・大学の休業日

土曜の開館についてはホームページをご確認ください。

■昭和館特別企画展「時代をまとう女性たち」

会期:2023年3月11日(土)~5月7日(日)

会場:昭和館3階 特別企画展会場

開館時間:10:00~13:30(入館は13時まで)

14:00~17:30(入館は17時まで)

休館日:月曜日(5月1日は開館)

後援:千代田区 千代田区教育委員会

会報 No.45:2023(令和5)年3月31日発行

編集発行人:服飾文化学会

事務局:102-8357 東京都千代田区三番町12

大妻女子大学ライフデザイン学科工芸デザイン研究室

TEL:03-5275-5738

E-mail:fukubunjim@gmail.com

URL:http://fukushoku-bunka-gakkai.jp/